京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０-２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ　http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*(Atomic Bomb Survivors)

12月４日(月)、「被爆二世健康実態調査アンケート」結果報告書作成検討チーム会議　ZOOMミーティング

２０２３年、この１年　２
福島取材報告№.３　汚染土壌等処理する中間貯蔵施設　米重節男　９
私の被爆伝承講話　心構え　庄田政江　１１
洛東高校での学習講演の感想文紹介　１３
会員から会員へ@みなさんからのお便り紹介　１５
ご案内　ＺＯＯＭ公開講座「被爆二世はいかに語るべきか」神奈川二世・三世支部　１７
「放射線を浴びたＸ年後Ⅲ」上映会と高橋博子さんの解説講演　１８
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　１５
「日本への原爆投下はなぜ必要だったのか」　１９
SCRAPBOOK　「広島原爆記録写真　世界の記憶に推薦」(毎日)　２０
「広島市　研修に教育勅語」(中國)
「『ゲン』メッセージ　カレンダーで発信」(中國)
編集後記　２１
２０２４年１行事カレンダー　２２

2023年、この一年

1.　この1年

１月　９日(月)　ジブチが核兵器禁止条約に署名。９２ヵ国目。
誤った原爆症認定更新却下処分（大阪府）に対して国家賠償を求めた裁判で、原告（被爆者）の訴えを却下する判決（大阪地裁）。
日米首脳会談開催、共同声明発表。日本の防衛力強化、インド・太平洋、核を含む安保条約、尖閣諸島、台湾海峡、半導体・宇宙・原子力エネルギー等。

１７日(火)　阪神・淡路大震災（１９９５年）から２８年。

１８日(水)　太平洋諸島フォーラム（豪、Ｎｚなど１７ヵ国と地域）が福島原発汚染水の海洋放出を延期するよう求める表明。

１９日(木)　時事通信世論調査、岸田内閣支持率最低の２６．５％、軍拡財源増税方針に「反対」５０．８％。

２０日(金)　ロシア・メドベージェフ国家安全保障会議副議長、「通常兵器による戦争で核保有国が敗北することは、核戦争の引鉄になる可能性がある」と威嚇発言。

２２日(日)　核兵器禁止条約発効２周年、世界で、全国各地で核廃絶を求める行動。

２３日(火)　米科学誌『プレディン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスツ』「終末時計」の針について午前０時までに９０秒になったと発表。

２５日(水)　京都市教育委員会、市立中学校での全員制給食の実施方針を表明。

２月　１日(水)　土地利用規制法の運用開始。

６日(月)　トルコ、シリアでＭ７．８の大規模地震発生。死者５万人超、シリアでは２５０万人を上回る子どもが被災。

７日(火)　欧州連合（ＥＵ）有機フッ素化合物ＰＦＡＳの使用禁止案の検討開始。

１０日(金)　政府、原発政策転換を閣議決定。次世代型原発への建て替え、運転期間６０年超への延長等。

１６日(木)　広島市教育委員会、小中高校の「平和教育プログラム」教材から「はだしのゲン」削除を決定。

２１日(火)　露・プーチン大統領、アメリカとの新戦略兵器削減条約（新ＳＴＡＲＴ）の履行停止を表明。

２２日(水)　国連総会緊急特別会合、ロシア軍の即時撤退、国連憲章に沿う和平達成を求める決議案、１４１ヵ国の賛成で採択。反対はロシア、ベラルーシ、シリア、エリトリア、北朝鮮、マリ、ニカラグアの７ヵ国。棄権は中国やインドなど３２ヵ国。

２４日(金)　ロシアのウクライナ侵攻１年。

２７日(月)　～３月１日(水)　２０２３年３・１ビキニデー

３月　１日(水)　広島市教育委員会が市立の小中高校を対象にした「平和教育プログラム」の教材から「第五福竜丸」の記述をなくす方針判明。
　２日(木)　全国約３００の自衛隊基地、23,000 棟の施設の「強靭化」計画方針が判明。
　１１日(土)　東日本大震災、東電福島第一原発事故発生から１２年。
　２３日(木)　露・メドベージェフ安全保障会議副議長（前大統領)、他国がプーチン大統領を逮捕した場合、核保有国ロシアへの「宣戦布告」とみなすと威嚇発言。

４月　１日(土)　「こども家庭庁」発足。
　４日(火)　フィンランドがＮＡＴＯ加盟。
　９日(日)　統一地方選　投開票。
　１５日(土)　ドイツ、脱原発完了。稼働中の最期の原子炉３基が運転停止。
広島第２次「黒い雨」原告団結成総会。広島地裁に提訴。３月末現在、４６９８人手帳申請、３７６３人認定、１８４人却下。
ヨーロッパの複数の環境団体が、欧州委員会を欧州司法裁判所に一斉提訴。「環境に優しい投資先から原子力と天然ガスを除外せよ」
　２０日(金)　政府、日本学術会議法改正案の今国会提出を断念。
　２１日(金)　国連世界気象機関（WMO）年次報告書を公表。海面上昇速度２倍に。
　２３日(日)　統一地方選挙(後半)投開票。
　２４日(月)　スウェーデン・ストックホルム国立平和研究所（ＳＩＰＲＩ）が２０２２年度世界の軍事費を発表。過去最高の２兆２４００億ﾄﾞﾙ（約３００兆円)。
　２８日(金)　広島「黒い雨」手帳申請を却下された２３人が集団提訴。「被爆者全員に手帳を」（第２次「黒い雨」訴訟）

５月　６日(土)　チャールズ・イギリス国王戴冠式に際し、英連邦１２ヶ国先住民指導者らが「イギリスの植民地支配や先住民集団殺害に」を公式に認め謝罪のプロセスを始めるよう求める公式声明発表。
　８日(月)　コロナ緊急事態終了、５類へ移行。
　９日(火)　入管法改悪案、軍需産業支援法案、衆院本会議で可決。
　１２日(金)　７５歳以上保険料上げの健康保険法など改正法参院本会議で可決、成立。
　１３日(土)　京都原水爆被災者懇談会２０２３年度総会。
京都「被爆二世・三世の会」２０２３年度総会
記念講演：竹峰誠一郎「マーシャル諸島終わりなき核被害を生きる」

　１９日(金)　～２１日(日)　Ｇ７広島サミット開催。
　２５日(木)　ベラルーシに戦術核間配備。
　３０日(火)　生活保護減額は「違法」静岡地裁判決。全国１１件目。
　３１日(水)　原発推進等５法（ＧＸ電源法）参院本会議で可決、成立。

６月　２日(金)　改正マイナンバー法、参院本会議で可決、成立。
　３日(土)　愛知県、栃木県、和歌山県で記録的豪雨。２人死亡。
　６日(火)　ウクライナ・カホフカ水力発電所の巨大ダム決壊。大洪水発生。４万人以上避難か。
　７日(水)　原爆投下を裁く市民法廷の開催に向けた第１回国際会議開催（韓国・南部・星

州郡内）
「軍需産業支援法」参院本会議で可決、成立。
９日（金）　改悪入管法、参院本会議で可決・成立。
１２日（月）　核保有９ヶ国、核兵器に年１１兆円超。ＩＣＡＮ報告。
ストックホルム国際平和研究所、世界の核弾頭数を報告。推計１２，５１２発、総数で減少、使用可能な核弾頭数は前年より８６発増加。
１４日（水）　陸上自衛隊日野基本射撃場で、自衛官候補生が自動小銃を発射。隊員２人が死亡、１人が重傷。
認知症基本法が参院本会議で全会一致で可決、成立。
国連難民高等弁務官事務所（ＵＮＨＣＲ）、難民に関する２０２２年度年次報告公表。難民総数は過去最多の１億８４０万人、前年より１９１０万人増加。
１６日（金）　軍拡財源法。参院本会議で可決、成立。
自民、公明、日本維新の会、国民民主による「４党ＬＧＢＴ法」、参院本会議で可決成立。
「不同意性交等罪」を創設する改正刑法が参院本会議で全会一致で可決・成立。
２１日（水）　露・プーチン大統領、新世代の大陸間弾道ミサイル（ＩＣＢＭ）が間もなく実戦配備と表明。同ミサイルは１０基以上の核弾頭が搭載可能。
世界経済フォーラム（ＷＥＦ）、世界各国の男女平等度を示す「ジェンダーギャップ指数」２０２３年版を発表。日本は総合ランキングで１４６ヶ国中１２５位。
２１日（水）　**２０２３年国民平和大行進　京都入り**

２４日（土）　ロシア・民間軍事会社ワグネル反乱、ロシア軍と衝突。
２９日（木）　日本維新の会・馬場伸幸代表、「アメリカの核兵器使用をめぐり発言権を要求」発言。ロイター通信のインタビュー。
～７月９日（日）守田敏也さん：国連人権理事会第５３回会期へ傍聴参加（ジュネーブ）

７月　１日（土）　オランダのウィレムアレクサンダー国王、同国が１９世紀半ばまで関わった奴隷制や奴隷貿易について「人道に対する犯罪」と認め、謝罪。奴隷制廃止１５０年記念式典にて。
記録的豪雨。山口県、九州各地で災害発生。
４日（火）　ＩＡＥＡ、福島第一原発汚染水海洋放出に対する包括報告書公表。「国際的な安全基準に合致」。
５日（水）　「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」第２次共同提出のつどい開催。第２次分署名３４３，４８１人（累計１３０万４，０１９人）。
７日（金）　核兵器禁止条約採択の日（２０１７年）。意見広告「私たちの安全を核兵器に委ねることはできません」毎日新聞に掲載。
８日（土）　韓国・ソウルで東電福島第一原発汚染水の海洋放出反対集会。「日本放射線汚染水海洋投棄阻止共同行動」署名３２万分集約。
１０日（月）　九州北部で記録的大雨
ＮＡＴＯ、スウェーデンの加盟決定。３２ヶ国体制へ。トルコが合意。
１１日（火）　～１２日（水）　ＮＡＴＯ首脳会議開催。首脳宣言「ＮＡＴＯの核戦力は平和を維持し、脅迫を防ぎ、侵略を抑止するための唯一無二の存在」。

ウクライナ・ストリレツ環境保護相、環境破壊状況表明。ウクライナの森林の３分の１が焼失、損傷。環境破壊の損失額は５１３億ユーロ（約８兆円）超の規模。

１３日(木)　マーシャル諸島のアディング外相、米上院エネルギー天然資源委員会公聴会で証言。米政府の核実験被害者補償の増額を要求。「米国は核実験被害を受けた住民を適切に補償するまでには至っていない」と指摘。

１６日(日)　**「トリニティ核実験とナバホネーションウラン精錬工場汚染水ダム決壊事故」二つの核事件を銘記する日。街頭宣伝（三条河原町）。**
米ニューメキシコ州サンタフェで「トリニティ核実験」の犠牲者を追悼し、核兵器のない世界に向けた行動を訴える集会。３００人以上参加。

１８日(火)　内閣府、２０２２年度末日本保有のプルトニウム総量が約４５．１トンとなると報告。国内保有９．３トン、海外保有３５．９トン（イギリス、フランス）。

２７日(木)　グテレス国連事務総長、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代到来」と警告。
米上院、「放射線被ばく補償法」の対象拡大を可決。「トリニティ実験」の被ばく者にも補償の申請資格。

２８日(金)　高浜原発１号機再稼働開始。１２年ぶり運転。

３１日(月)　２０２６年のＮＰＴ再検討会議に向けた準備委員会開幕。ウィーン。８月１１日（金）まで。

８月　２日(水)　中国電力、山口県上関町に対し、使用済み核燃料中間貯蔵施設建設のための調査実施を申し入れ。
京都市、２０２２年度一般会計決算の概要発表。過去最高７７億円の黒字。

４日(金)　～　５日(土)　原水爆禁止２０２３年世界大会・国際会議開催（広島市）国際会議宣言採択。

６日(日)　被爆７８年広島平和記念式典。
原水禁２０２３年世界大会ヒロシマデー集会。
ヒロシマの日　キャンドルビジル（三条大橋）

７日(月)　～　８日(火)　原水爆禁止２０２３年世界大会・長崎の開会総会。
「川内原発２０年運転延長の賛否を問う県民投票実施」をめざす条例制定を求める署名提出、５万２９０人分。（法定数は２万７千人）

９日(水)　被爆７８年長崎市平和記念式典　「『核抑止』脱却の決断を！」、「平和宣言」で長崎市長迫る。

１１日(金)　２０２６年ＮＰＴ再検討会議第１回準備委員会閉幕。議長による総括案は見送り。（イラン反発、ロシア、中国も同調）

１５日(火)　ハワイ山火事死者１０６人に、行方不明者１３００人。

１８日(金)　米・バイデン大統領、日・岸田首相、韓・尹大統領の３首脳会談開催。共同声明発表。軍事対軍事、核対核の危険な悪循環を作り出すアメリカ中心の軍事的枠組作り。
山口県・上関町長が使用済み核燃料中間貯蔵施設建設調査容認の意向表明。
ニューヨーク・タイムズ電子版、ウクライナ・ロシア両軍の死傷者５０万人と報道。死者はロシア１２万人、ウクライナ７万人、合計１９万人。負傷者はロ

シア１７～１８万人、ウクライナ１０～１２万人。
２３日(水)　**ドキュメンタリー映画『放射線を浴びたＸ年後Ⅲ　Silent　Fallout』上映会。**
大西洋奴隷貿易廃止を記念する国際デー。ロンドンでの追悼記念式典で国際司法裁判所（ＩＣＪ）の判事が「奴隷制度の責任を認め賠償するよう」講演。
２４日(木)　東電、福島第一原発汚染水の海洋放出開始。

９月　１日(金)　気象庁発表。２０２３年夏（６～８月）の平均気温が平年基準値（１９９１～２０２０年の平均）を１．７６度上回り、１８９８年の統計開始から１２５年で最も高くなったと発表。
ロシア、新型ＩＣＢＭを実戦配備。核の威嚇強化へ。
バイデンアメリカ政権、ウクライナに劣化ウラン弾供与へ。
３日(日)　**南方特別留学生サイド・オマールさんの７８回忌　墓前祭と交流のつどい**
４日(月)　辺野古新基地建設工事　沖縄県の不承認は「違法」、最高裁が上告棄却する不当判決。
８日(金)　福島県内外住民１５１人が福島第１原発汚染水海洋放出の差止を求めて行政訴訟と民事訴訟を提訴。
防衛省沖縄防衛局、辺野古新基地計画大浦湾側の護岸工事広告を強行。
北アフリカ・モロッコ中部で大規模地震発生。死者２５００人以上。
１２日(火)　ＥＵ欧州議会、２０３０年までにエネルギー消費に占める再生可能エネルギー比率を従来目標の３２%から４２．５%に引き上げることを決定。
１３日(水)　リビアで大洪水発生、死者５３００人以上。
１９日(火)　スリランカ、核兵器禁止条約批准。６９ヶ国目。バハマ（カリブ海）が核兵器禁止条約に署名、９３ヶ国目。
２４日(日)　～３０日(土)　**増田正昭さん：「被爆者の肖像画」個展**
２７日(水)　ノーモア・ミナマタ近畿第２次訴訟、原告１２８人全員に勝訴判決。大阪地裁。
長崎県対馬市比田勝尚喜市長、「核のゴミ」文献調査に応募しないことを表明。

１０月　４日(水)　九州電力川内原発１・２号機の２０年延長運転の是非を問う「県民投票条例」制定めざす署名４６，１１２人分を提出。「川内原発２０年延長を問う県民投票の会」。
５日(木)　辺野古新基地強行、国が「代執行」へ提訴。
６日(金)　２０２３年ノーベル平和賞、イランの女性人権活動家ナルゲス・モハンマディさんに決定。
７日(土)　パレスナ自治区のハマス、イスラエルに３，０００発以上のロケット弾攻撃。１００人死亡、８００人が負傷。イスラエル軍もガザを空爆。
アフガニスタン西部でマグニチュード６．３の大規模地震発生。死者２，０００人以上、９，２４０人が負傷。
９日(月)　イスラエル、ガザの完全封鎖を宣言。ハマスも人質の殺害警告。
１０日(火)　関電、原発構内に空冷式使用済み核燃料一時保管貯蔵施設設置の検討を表明。
１１日(木)　イスラエル、ネタニヤフ首相と野党「国家団結党」が「戦争遂行内閣」を樹立。
１３日(金)　イスラエル軍、１００万人を超えるガザ市の全住民に対し、２４時間以内に南部に退避するよう通告。
中東をはじめ世界各地でパレスチナに連帯し、イスラエルのガザ攻撃に抗議するデモ。
文科省、統一教会の解散命令請求を東京地裁に申し立て。
１４日(土)　ヨーロッパ各地でパレスチナへの連帯行動。イギリス、デンマーク、イタ

リアなど。「パレスチナ支持は反ユダヤ主義ではない」

１８日(水)　国連安全保障理事会、ガザ戦闘中断決議案を否決。アメリカが拒否権行使。

２５日(水)　原発延長県民に問う条例案、鹿児島県議会委員会で否決。
福島第一汚染水処理のＡＬＰＳで配管洗浄作業中の作業員４人が放射能汚染。

２７日(金)　国連総会緊急特別会合決議「人道的休戦を求める」採択。
賛成　１２１ヶ国　中国、ロシア、フランス、アラブ諸国など
反対　　１４ヶ国　アメリカ、イスラエル、オーストリアなど
棄権　　４４ヶ国　日本、イギリス、ドイツ、イタリア、カナダ等
国連総会第一委員会、「核兵器禁止条約の発効と第１回締約国会議の開催を歓迎し、未参加の国々に署名・批准をよびかける」決議案を採択。
賛成　１２４ヶ国
反対　　４３ヶ国　日本、核保有９ヶ国、NATO 諸国
棄権　　１４ヶ国

１１月　２日(木)　ロシア、包括的核実験禁止条約（ＣＴＢＴ）の批准を撤回する法律を発効。

５日(日)　イスラエル軍報道官、パレスチナ自治区を北部と南部で完全に分断と表明。
イスラエルのエリヤフ・エルサレフ問題・遺産相、「ガザへの原子爆弾投下が選択肢の一つ」と発言。政府会合への出席禁止処置を受ける。

１０日(金)　太平洋諸島フォーラム（ＰＩＦ）首脳会議が共同コミュケ発表。福島原発汚染水海洋放出に対し一部の首脳が「強い懸念」を表明。

１５日(水)　国連安全保障理事会、ガザ―「長期間の人道的な戦闘休止と回廊設置」を求める決議案を賛成多数で採択。(マルタ提出の決議案)
賛成　日本など 12 ヵ国
棄権　アメリカ、イギリス、ロシア、イスラエルは欠席

１７日(金)　ガザの死者１２，０００人超え、うち５，０００人が子ども。(パレスチナ自治区ガザ保健当局)。

２０日(月)　抗議メッセージ「イスラエルはガザ攻撃を中止し、撤退を」発信。

２３日(木)　韓国ソウル高裁、「慰安婦」日本に賠償命令判決。

２４日(金)　イスラエルとハマス戦闘中断発効。
ハマス人質の２４人を解放。イスラエルはパレスチナ人３９人を釈放。

２７日(月)　核兵器禁止条約第２回締約国会議開幕　１２月１日(金)まで。

２９日(水)　米軍機オスプレイ、屋久島沖に墜落。
「新生存権裁判」(いのちのとりで裁判）の控訴審判決（名古屋高裁）で、一審判決を退け生活保護引き下げの取り下げと、国の国家賠償を命じる判決。
ＵＡＥのドバイでＣＯＰ２８開幕。

１２月　１日(金)　イスラエル軍、パレスチナ・ガザ自治区攻撃再開。
核兵器禁止条約・第２回締約国会議閉幕。

２日(土)　ＣＯＰ２８首脳級会合開催、世界の再生可能エネルギーの容量を２０３０年までに３倍にする有志国誓約、１１６ヵ国、日本も参加。
一方で、日本、アメリカなど有志２０ヵ国が原発発電能力を２０５０年までに

３倍に増やす宣言。

３日(日)　ＣＯＰ２８で、日本「化石賞」受賞。

４日(月)　第７８回国連総会、「核兵器禁止条約の発効と締約国会議の開催を歓迎し、未参加国に条約への参加を呼びかける」決議案賛成多数で採択。１２３ヵ国が賛成。４３ヵ国反対、１７ヵ国棄権。日本政府は反対。

６日(水)　米軍、オスプレイ全機の運用停止を表明。海軍、空軍、海兵隊合計４００機。日本には４４機配備（米軍３０機、陸自１４機）

８日(金)　ガザ停戦・国連安全保障理事会、アメリカ拒否権で否決。日本を含む１３ヵ国が賛成、イギリス棄権。

１２日(火)　国連総会緊急特別会合、「パレスチナ・ガザの即時人道的停戦」を求める決議１５３ヵ国の賛成で採択。日本も賛成。反対はアメリカ、イスラエルなど１０ヵ国、イギリス、ドイツなど２３ヵ国が棄権。

１３日(水)　国連気候変動枠組み条約第２８回締約国会議（ＣＯＰ２８）、成果文書を採択して閉幕。「化石燃料からの離脱」に初めての言及。多くの抜け穴も残され、対策強化に向けた今後の運動が課題。
第２１２臨時国会閉会。
改悪国大法が成立（参院本会議）。

2. この1年間に新たに入会されたみなさん

- 伴　沙羽子　さん
  - 現在会員は、２世７３人、３世１2.人、その他３７人　合計１２２人

3. この1年間に紹介させていただいた被爆の体験

- №.９７　浦上博子さん　私の村にも「黒い雨」は降った
- №.９８　柳橋晧子さん　あの日の一部始終を生涯忘れることはない

4. 2024年度に向けて

① 「被爆２世・３世の健康実態調査アンケート」報告書の発表と普及
- 「被爆二世とは何者か」その実態、実相を社会に報告、指し示していく。

② オンライン情報と多言語化への挑戦
- ホームページの改善改革、英訳の恒常化にこだわる。

③ 核廃絶運動の飛躍
- あらためて核廃絶運動を真正面のテーマに。

④ 京都「被爆二世・三世の会」会員のコミュニケーションと絆を深めていく

⑤ ２０２４年の主なスケジュール
- 増田正昭さん「被爆者の肖像画」個展・広島会場　２月１３日（火）～１８日（日）
- ２０２４年３・１ビキニデー　２月２８日（水）～３月１日（金）
- 京都「被爆二世・三世の会」２０２４年度総会　４月または５月で検討中
- トリニティ核実験とチャーチロック核汚染水事故の追悼と救済のアピール　７月１６日（火）
- ２０２４年原水爆禁止世界大会　８月４日（日）～６日(火)　広島
- 南方特別留学生サイド・オマールさん墓前祭　９月３日（火）

福島取材報告№.3

汚染土壌・木材等を処理貯蔵する中間貯蔵施設は向日市の二つの面積

米重節男（向日市）

１０月１７日午前中は汚染土の中間貯蔵施設を見学しました。大熊町の「中間貯蔵工事情報センター」で、案内の丹治杉江さんと合流して、施設の概要説明を受けました。ここは、今年８月から一般の見学を受け入れているとのことで、丹治さんも初めて入るとのことです。丹治さんとは、２０１６年にチェルノービル原発事故３０年視察ツアーで、一緒になりました。その時は、群馬県に避難していましたが、今年３月にいわき市に帰ってきたそうです。楢葉町の伝言館の管理者がないというので、事務局長となりいわき市から往復８０㎞を通っているそうです。

ここの中間貯蔵施設は環境庁の所管です。福島県内の除染作業で出た汚染土や塵芥などはフレコンバックに詰めて、臨時の保管所に積んで置いてありました。

今回、福島を訪れて気が付いたのは、あちこちに積んであったフレコンパックがほとんどなくなっていたことです。それらはこの中間施設に運び込まれ、可燃物と土に分別して、その土を保管するのが中間貯蔵施設です。３０年間保管した後は、県外最終処分をするということで「中間」となっています。

同じ名称ですが、北海道や山口県で問題となっている中間貯蔵施設は、使用済み核燃料など放射線量の高い核のゴミの保管場で、経産省の所管です。ここの中間貯蔵施設とは全然別の物です。

廃炉作業中の福島第一原発を真ん中にして、大熊町と双葉町にまたがって国道６号線から海側の約１６㎢の区域が中間貯蔵施設用地に指定され、国の責任で工事が進められています。この広さは向日市（７．７２㎢）二つ分でも余りがある広さです。

２０１５年３月から汚染土が運びこまれ、土壌と可燃物に分別しています。分別した土壌は、区域内の土壌貯蔵施設に集めます。そこで土壌を最大４００ｍ×７００ｍで１５ｍの高さまで階段状に積みます。この施設内には、このような「土壌貯蔵施設」８か所、「受入・分別施設」７か所、「廃棄物貯蔵施設」２か所、「減溶化施設」「飛灰洗浄処理技術等実証施設」「技術実証フィールド」各１か所作られて、土や廃棄物が運びこまれています。

多くのダンプカーや車両が行きかっています。可燃物は燃やして容量を減らして保管します。８０００ベクレル/ｋｇ以下の土壌の再利用化も試行されています。飯舘村長沼地区では、再生利用実証事業を進めており、現地見学会をしています。

バスに乗って環境省職員の案内で、中間貯蔵施設の中を、約６０分かけて回りました。途中２か所は下車しての説明でした。区域内の土地は環境省が買収交渉しています。約２割の地権者とは３０年借地契約しているそうです。敷地内には、津波で壊れたままの建物が、そのまま残っており、震災遺構化しています。高台にある特別養護老人ホーム「サンライトおおくま」は、地震のあった３月１１日夜９時頃には、避難指示が出されて入所者と職員はそのまま逃げたそうです。廃墟となった建物には、機器類や書類もその時のまま放置されていました。職員が通勤で乗ってきた車も、その時から駐車したまま１２年半がたって、埃だらけになっていました。下車した１か所はその施設の敷地内で、福島第一原発の全体が目前に見渡せる展望台です。事故前は、地元の人たちは、高齢になったら「サンライトおおくま」に入所するのが、楽しみだったそうです。

過去の取材では、原発は直接見られませんでしたが、今回初めて見ることができました。手前に山積みの土壌の山と奥に広がる林、その外が原発敷地です。汚染水貯留タンクが林立している奥に１号機～４号機の原子炉建屋が見えます。５号機６号機も離れて見渡せます。

中間貯蔵施設区域内には、津波で壊れた漁業育成センター施設、避難したまま放棄された工場建物や公民館や学校などの施設、個人の住宅などが残っています。

説明の若い環境省職員は、土地の買収交渉での苦労を語っていました。鎌倉時代からの先祖伝来の土地を手放すことはできないという人もあって、交渉は難航したそうです。墓地を移転するので、その式に立ち会ったこともあるとの話でした。この敷地内には、まだ墓地が残っていました。海側には工場団地があり、工場もそのままになっていました。土地買収交渉では、民間会社との交渉が最も早く決着したそうです。営利企業ですから、使えないとなれば即売却と動いたようです。その点は、先祖代々この地で生業してきた個人とは、土地への想いが違います。そのような人々から、土地を提供してもらって３０年間の中間貯蔵をしています。３０年後は２０４５年ですが、その時に最終処分地がどうなるかは未定ですし、時間はありません。すぐにその時が来るでしょう。原発事故から１２年経過した今を見れば、結局はここが最終処分地になるのではとの想いが頭をよぎります。この無人の中間貯蔵施設の風景は、２０１６年に見たチェルノービル原発周辺の廃墟となった村が、重なってよみがえってきました。

これまでに１兆６千億円の費用がかかっているそうです。今は国が支出していますが、先では東電に請求すると環境省職員は語っていましたが、本当に東電から回収できると考えているのだろうかと耳を疑いました。結局は「国の負担＝国民の負担」になるような気がしました。

原発は一旦事故になれば、国民はとんでもない負担を被ると実感しました。

（次回、農民連の取材、東日本大震災・原子力災害伝承館、その他を報告）

造成中の土壌貯蔵施設

中間貯蔵施設の全体説明図

中間貯蔵施設内の展望台から見る福島第一原発の全景

私の被爆伝承講話　心構え

庄田政江（大阪市平野区）

広島被爆体験伝承者として

私は１０数年前に新聞で広島が伝承者を育成するという記事を目にして興味を持ちました。
でも、ガイドの仕事で広島に行くこともあるので、それで十分かなとスルーしました。
その後、被爆者の父も亡くなり他の被爆者の方が亡くなったニュースを聞くにつれ、原爆の悲惨な状況を語れる人が確実にゼロになる日が近づいていると感じました。
それに加えて元気な孫が次々に生まれ成長を見ていて、この孫達に戦争のない幸せな人生を送って欲しいと強く願うようになりました。

そこで一念発起して５月に広島平和記念資料館の伝承者７期生に申し込むことにしました。
１年目は座学で講師の方から学び、被爆者の方のお話を聞きました。２年目は私が選んだ河野キヨ美さんとグループの方達とのミーティング、３年目で４５分間の原稿Ａ４で約１０枚書き上げて、担当者に提出し添削してもらうことを繰り返す（途中で担当者が変わると、また違う意見が出て書き直すことも）。
私の場合、暁部隊で救護活動のため入市被爆した父の体験も入れています。
原稿が完成するとパワーポイントを使って実習を３回行う。
最後は資料館から副館長以下３人が参加して、実習の後質疑応答する。
毎回何かの指摘があるので修正を行う。
実はこの最終の副館長他の質疑で、担当者から「質問をよく聞いて、簡潔に答えてください。」と２回注意され、後の感想でもその文言が入っていました。私は頑張って答えようとして前置きが長くなり、質問はなんだっけ？状態になり、的確に答えていなかった。緊張してはいなかったけど・・・そこまで言わなくても・・・そんな言い方しなくてもと思いましたが、今では心がけなければと思っています。やはり被爆者の方は質疑応答でもしっかりされているので見習わなければと思います。

こうして認定されて伝承者になり、約１年資料館地下で伝承を経て、外部からの委嘱を受けて学校等で活動するのです。私の時は３年間＋コロナ禍で２年以上中断の繰り返し＋弁膜症手術で１年の計６年かかりました。
４月の委嘱式では証言者と伝承者が同席する為、久し振りに河野さんや仲間達と再会し、みんなでランチをしながら楽しくおしゃべりしました。河野さんに「おめでとう！」と言ってもらえてやっとこの日が来たと最高の気分でした。
河野さんは９３歳の今も子供達に証言されているので、私も弱音を吐くなんてとても出来ないのです。
「あなた達が引き継いでくださるから安心です。」と言われたら身が引き締まります。

被爆体験伝承者と家族伝承者

現在、私は資料館地下で隔月伝承講話をしていますが、来年（令和６年）には学校とかで講和が出きるようになり交通費と少額の講師料が出ます。
現在までの広島行きの交通費、宿泊費は全て自己負担ですが、地下での講和による講師料は頂いています。
現在、研修は２年間に短縮されています。そして問題の研修途中で証言者が亡くなったらどうするか・・・・。「今までは証言者に原稿を見てもらっていないと認定はされない。」でみんな諦めたのです

が、今は改善されています。
そして私が研修時に体験を聞いた被爆者の方はすでに数人亡くなり、存命の方も９０歳過ぎて高齢のため伝承者育成はされていないと思います。
証言をしながら伝承者育成するのはかなり負担なのです。最近では実習への同席も１回に減り、負担は少なくなっていますが。
だから本当にこの数年がラスト・チャンスなので、是非三世の方達にチャレンジしてもらいたいと思います。そして、将来英語での証言も出来るよう頑張って欲しいのでこの文を書いています。
また、新たに家族の被爆体験伝承者の募集もあり、２０２３年から認定を受けた方が７名います。
以下、広島市の HP より
https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/atomicbomb-peace/329415.html

研修で感じたこと：

河野さんは「焼け跡の写真を入れたら良いのでは？　似島には１万人運ばれて多くが亡くなったことも入れて下さい。」となかなか鋭い提案をして下さってすぐに取り入れました。
また笠岡貞江さんの伝承者講和の実習に参加したときは、伝承者の講話を真剣に聞かれている笠岡さんの姿を見て、すごい執念だなと思いました。それと同時に命を削って育成される姿を目の当たりにして、私も被爆者の方から託された責任の重さを再確認しました。

今の心境

これまで私は４回地下で伝承講話をしています。毎回前泊して他の伝承者講話を聞いています。
「大阪から来ました。よろしくお願いします。」と言うと「聞いてもらっても参考になりませんよ。」と言いながら、全て暗記してすらすら話す人もいて、最近は広島の方の言うことは信じられないなと・・・・。
また、公園のアオギリの前で休憩している子供達には、胸の証明書を見せながら、「私ね、伝承者なんよ。しっかり勉強して帰ってね。」とか変なおばあさんと思われないように気をつけながら話しかけています。地下で証言を聞く生徒達には「どこから来たの？へー京都から・・・ご苦労さん！　被爆者は９０歳くらいやから貴重なお話しっかり聞いてね。寝たらあかんよ。」とかつい話しかけてしまいます。元気よく「はあ～い！」と返事してくれるので元気と希望をもらっています。

私が大阪の学校で伝承講話をして、できれば広島で河野キヨ美さんの証言を聞いてもらいたいと考えています。

また、英語の伝承にも参加していると、日本人と外国人との差や違いを感じます。
日本人は過去の話として聞いている感じですが、外国人は現在・未来のために広島から学ぼうとしている気がします。伝承者が急いでいて私に任されて、質問者と話をすることもあります。先日話しかけた人はユダヤ系アメリカ人で、「アウシュビッツで家族が殺された。広島の展示は素晴らしい。」と話されていました。

世界中、日本中から多くの人が学びに来る広島。
河野さんは「私も戦争がある度に絶望するけど、やっぱり立ち上がって証言するしかない。」と話されています
すぐに結果が出なくても、語り継ぐことで原爆被害の風化を食い止め、広島が未来の核戦争の歯止めとなることを願わずにはいられません。

11月17日、府立洛東高校での学習講演の感想文紹介

１１月１７日（金）、京都府立洛東高校にて「核兵器のない世界に向けて」と題した学習講演をしてきました。その時のいくつかの感想文が掲載された『第１学年・学年通信』を送っていただきましたので紹介します。講演は１年生２４０人を対象に行いました。（南区　平　信行）

少し日が経ってしまいましたが、総合的な探求の時間のもうひとつの講演会、平信行先生による「核兵器のない世界に向けて」の感想から、いくつか感想文を紹介しながらふりかえります。

1.　現在の世界情勢について、わかったこと・考えたこと

- ウクライナでは何の罪もない人が５０万人も死傷しているし、自分の大好きな故郷を離れないといけないという、心細い思いをしている人が１０００ 万人以上いるとわかった。そんなことがあるのに、イスラエル・パレスチナの方でもたくさんの被害を出しているのは本当に良くないし、これ以上こんなことは起きてほしくない。

- ロシアがウクライナとの戦争に核をちらつかせたり等していて、核がまだ身近なところにあって怖いと思った。
- 戦後も核はなくならず、今もたくさん作られている。ロシアは何かあったら核を使うと言っているし、アメリカや他の国でも核を使いやすいようにしている。

2.　広島・長崎の経験から、わかったこと・考えたこと

- 爆風だけでも人々が吹っ飛ばされて圧死、即死。それで生き残れても３，０００度～４，０００度の熱線で多くの人が亡くなり、さらには放射線で爆心地から１ｋｍ以内の人は多く死亡し、今もなお放射線に苦しんでいる人がいるということが分かった。７８年前でもこんな威力だと思うと、今の核兵器はもっと恐ろしいと思った。
- 核は一発でもとても多くの死者や被爆者を出すもので、核が落ちたときだけではなくて、将来にも影響が出る。あってはならないものだと思う。
- 京都にも被爆者の方が６９８人いる。８月６日には、朝早くから中学生が作業をしていたため、１２，１３ 歳の人たちが多く即死した。現代の核兵器は、広島の核兵器の３，０００倍もの威力があると知った。
- 子どもや高齢者とか、関係なしに落とされると想像したら、すごく心が痛くなった。

3 現在世界に存在する核兵器について、わかったこと・考えたこと

- 核兵器を持っている国はそれほど多くないが、ロシアとアメリカで５，０００発を越える。ミサイル実験をしている北朝鮮でも２０発持っている。核兵器の保有を認められている国もあることがわかった。世界では「核兵器に依存する国」は少数派であって、核兵器禁止条約を批准して

いる国は現在６９ヵ国あるということがわかった。しかし日本は、北朝鮮などに対してアメリカの核の傘が必要等の理由で、この条約に入っていない。

- 世界にはまだ１万発以上の核爆弾が存在している。ロシアやアメリカが特に多く所持している。所持する国が早くゼロになってほしい。
- 元々持っていた５ヵ国は核保有していてもよいという条約があったことに驚いた。その後核を持つ国が増えたことも怖いと思う。核兵器をなくすと約束したけど、なくならないことを知ったし、核兵器があり続ける限り平和は難しいと思う。
- ヨーロッパにはアメリカの核兵器が配置されており、その核を共有する国（ドイツ、オランダ、ベルギーなど）があったりと、現在も核兵器による不安は少なくないということがわかった。
- 世界にある核兵器の数は思っていたより多く、１２，７０５発もある。一発でもいいからなくなってほしいと思った。

４ 核兵器のない世界に向けて

- 今世界で核をなくそうとしている一方で、ロシアなどが今の戦争に核をちらつかせていることにびっくりしたし、あってはならないことだと思った。「広島、長崎を最後の被爆地に」という言葉は本当に大切だと感じた。日本も、アメリカの核に守られてると思うのではなく、核をなくそうとする活動に参加する必要があると考えました。
- 核の開発などに費やされている軍事費は、莫大な金額になる。約８２９億ドル（約１１兆５２００ 億円）も使われているので、核にお金を使うぐらいなら、他のところにこの金額を使えば、助けられる人がいるのではないかと思った。
- 核兵器の不拡散に関する条約（ＮＰＴ 条約）が定められたこと、また核兵器の保有が認められている国が５ヵ国だけあって、その国がアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国で、この国々が条約ができる前から核を持っていたため、今だけは保有してもいい、とされていることが分かりました。ＮＰＴ条約については社会の授業で単語だけ聞いていたけど、今回内容を詳しく学ぶことがで きました。
- 日本は、亀裂が深まるなどの理由で核兵器禁止条約に批准も署名もしていない。核保有国がこの条約に加盟しない限り、日本も加盟しなくていいと考えた。
- 核兵器禁止条約に日本はまだ批准も署名もしていなくて、北朝鮮との問題などがあって、国民世論の７０％はこの条約を望んでいるが、北朝鮮は核を持っているからどうするべきなのかわからない。
- 核兵器のない世界には、「核抑止」という、核兵器の威嚇によって他国を押さえつけることをやめなければならないと思った。核抑止のために、軍事費に膨大なお金を費やすのではなく、世界で起こっているパンデミックや気候危機、飢餓、貧困などにお金をかけるべきだと思った。
- 今世界で、あんなに多くの核兵器があることを初めて知った。そして世界中で軍事費に使われている金額が２兆１１３０ドルだということにびっくりした。核開発に使われている軍事費で、他にも使えるところがもっとあるのになと思った。核を６０００近く持っているロシアやアメリカは、何を思ってそんなに持っているのか、疑問に思った。

- 核抑止論は国と国との危険な緊張関係を高めてしまう可能性もあり、本当に平和と安 全を守れるかは難しい。やはりこのままでは戦争を繰り返すだけになってしまうから、核兵器はすぐにでもなくさないといけないものだと、改めて思った。
- 核があることによって、核を持っている国が、持っていない国に対して威嚇をしている。それが今のロシアとウクライナのような状態で、実際には核は使われていないけど、ロシアは使おうとしている様子を見せて

いる。自分たちは広島、長崎のような被害をもう一度引き起こさせないように、この経験を忘れてしまうのではなく、他の人たちに伝えていくことが大切だと思う。自分にできることをしっかりとしていきたい。

- 国連加盟国の推移は年が経つほどに多くなっている。大国中心から、民族独立、植民地解放と、あらゆる国と人々が対等平等の国際社会になってきているということがわかった。
- 難しいけれど、ひとつでも核兵器をなくして、ゼロに近づけることが大切だと思った。
- 核兵器禁止条約に入るのが、核兵器のない世界への一歩だと思う。
- インターネット上で「核をなくそう」と投稿するなど、自分でもできることをしようと思った。
- 核兵器のない世界に向けては、すべての国と核兵器禁止条約を結んで、核をなくす。核開発の軍事費を減らす。ひとり一人が核に対して深く知る。世界中の子どもに、核兵器で何が起こったのかを教える。

これからの未来を生きていく世代として、皆さん自身がどのような世界をつくりたいのか、そのために自分たちには何ができるのか…。大きな問いですが、考え続けてほしいものです。

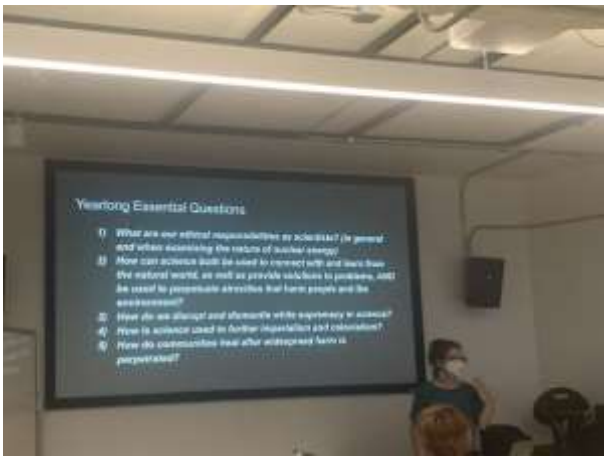
会員から会員へ　✿　みなさんからのお便り紹介

他地域の２世・３世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■核の「使う側の理論」から「使われる側の理論」へ

宮本ゆき（シカゴ）

この秋のシカゴ市公立学校７年生（中学１年）への「核エネルギーと身体」の授業が終了。先生が素晴らしく、ディスカッションの内容も「科学者の責任」や「白人至上主義の科学を揺さぶるには」とい



ったもの。彼らが作ったアートも素晴らしく、大学ではもっぱら核を「使う側からの理論」しか教えてないのに、７年生は「僕たちは実験用じゃない」とういメッセージを持って「使われる側の理論」を表現しています。涙が出そう！このプロジェクトを他の学校にも広げていきたいです。

３週間前、ロス・アラモスからの汚染と闘っているプエブロの女性たちと会いました。でも、近隣のプエブロの住民にとって、唯一の安定した雇用はロス・アラモスでもあるという、ハンフォード、水俣、福島で起きているようなことが、やはり再生産されています。（だから被害を言い出しにくい）。

また、『オッペンハイマー』の影響でロス・アラモス博物館や、そこから車で１時間の国立核博物館に行きましたが、前者は相変わらずリトルボーイとファットマンのイヤリングを売っており、何らネガティブな情報はなく、後者は広島の被害の写真があるものの、建物だけ。人的被害はなく、今はこんなに復活しているというビデオと写真で締めくくられていました。映画『オッペンハイマー』で、関心が高まれば良いと思っていましたが、関心を持った人がいても、こういった場所で、同じ語りしかしてなければ、核に対する認識は変わらないことを痛感しました。ただ、待っているだけでなく、こちらから違う語り（プエブロの女性の語りなども含め）発信していかなければ、と思った次第です。

■大学での講義　若い世代への期待

古田京子（八幡市）

先月、２０人ほどの大学生に、福祉やソーシャルワーク、虐待などについて、現場からの視点もふまえてお話をする機会をいただきました。大和大学社会学部で一コマ講義しました。二回生、三回生中心でした。講義後の懇談や寄せられた感想を読ませていただき、若者の素直な感性や正義感を頼もしく、そして嬉しく感じました。これからの社会を担っていく若い世代に、少し先を生きてきた一人として、大切なことは伝え続けたい、伝えなければならないと思った一日でした。

最近は講師などをさせていただくことがあれば、講義の最初の自己紹介で自分のルーツが広島であることに触れるようにしています。講演の内容にもからめながら、私なりにほんの少しですが伝承してます。少しでも聞かれた人々の心に残ればと思ってます。今年は二回しかできませんでしたが、、、

■山岳部同窓会で元気回復

井坂洋子（北区）

今年は、何年かぶりかで北山の会の総会。私は洛北高校の山岳部に入っていて、毎週のように山に行ってた。洛北山岳部の山行きは、夏は地下足袋とワラジで沢登り。冬は山スキー。沢歩きはとても楽しい。滝を登る時どのコースをとるか考えながら登る。シャワーやゴルジュも爽快。冬の山スキーもシールというアザラシの毛皮をスキーの裏につけて登り、雪洞掘って泊まり、翌朝新雪を滑る。これまた爽快。２学年先輩で北大に行った小泉さんのお話。高校の頃の写真も登場😆歌集も出て来て、ロシア民謡とか夜星を見ながらずっと歌ってたなぁなど、話は尽きない。２次会はロシア料理のキエフへ。店長さんは洛北高校の大先輩だそう。美味しかった😊

みんな高校時代に戻ったようにとても懐かしかった。７０代８０代の先輩方、とても元気。「明日から立山や」とか。何年か前に会った時は私よりずっと高齢の方に「あんたチョモランマ行かんか❗」と誘われたことも。元気が１番😆

ZOOMによる公開講座　第3回

主催　神奈川県原爆被災者の会　二世・三世支部
協賛　京都「被爆二世・三世の会」　静岡県原水爆被害者の会二世　岡山「被爆2世・3世の会」

被爆二世は　いかに原爆を語るべきか？
～未来世代に引き継ぐために～

2024年1月28日（日）　13時30分～16時30分
ZOOMにより開催

核兵器による被害は　戦争において使用されたときだけに生じるものではないのではないだろうか・・・！？
その被害は一般の兵器とは違う決定的な特徴として、影響が当該世代にとどまらず　次世代以降、未来世代にまで及ぶものとしてとらえなければならないのではないだろうか・・・！？
様々な場で被爆の実相、被爆体験の伝承などの活動にたずさわっている被爆二世の方々に　どのように被爆体験を語り、何を伝えようとしているのかについて語っていただきます。

永田一郎さん
…くにたち原爆体験伝承者…
（神奈川県原爆被災者の会　二世・三世支部役員）

柿田富美枝さん
…長崎平和推進協会家族証言者…
（長崎原爆被災者協議会事務局長）

お二人が被爆体験伝承講話を行なうなかで考えた　伝承の意義、あり方、
被爆二世としての思いや被爆二世問題の実情などについて語ります。

平　信行さん
京都「被爆二世・三世の会」で　行なった
健康アンケート調査結果について
（京都「被爆二世・三世の会」世話人代表）

木原省治さん
「碑巡り案内」の活動のなかで
（広島県被団協・被爆を語り継ぐ会会員
原発はごめんだヒロシマ市民の会代表）

ディスカッション　被爆二世はいかに原爆を語り、またそれを未来世代に引き継ぐべきか？
そして　どのように核廃絶への道を切り拓いていくか？

上記４人のみなさんとともに
小山美砂さん（ジャーナリスト　著書『「黒い雨」訴訟』　『被爆者の子どもに生まれて～ルポ被爆二世』執筆中）
森川聖詩さん（神奈川県原爆被災者の会　二世・三世支部副支部長　広島平和文化センター被爆体験伝承者）

参加申し込み方法　申し込みフォーム
https://forms.gle/w8L7y2bGaBSdWmu56

案内メールの説明をお読みになり必要事項を記入のうえお送りください。「アカウントを切り替える」は、何もしなくて構いません。記入後「送信」を押すと、公開講座ZoomのURLが表示されるので、URLを控えるか「画面の保存」をしてください。
右記のQRコードからでも申し込み可能です。

参加費無料です
なおこの講座開催のためのZOOMなどの経費への支援カンパにご協力いただければ幸いです。

カンパ振込先
・ゆうちょ銀行からの場合　記号 10900　番号 38471731　口座名「ヤマモト ミドリ」
・他銀行からの場合　【店名】〇九八　【店番】098　【預金種目】貯蓄預金
【口座】3847173　【口座名】「ヤマモト ミドリ」

神奈川県原爆被災者の会　二世・三世支部　kanagawa-niseisansei@googlegroups.com

放射線を浴びたＸ年後Ⅲ 上映会と

サイレント・フォールアウト 歯が語る大陸汚染

高橋博子氏による解説講演のつどい

ドキュメンタリー映画 **放射線を浴びたX年後ⅢSilent Fallout**

元ローカルテレビ局ディレクターでドキュメンタリー映画監督の伊東英朗によるシリーズ映画「放射線を浴びたＸ年後」第3弾。過去2作品では、アメリカによる太平洋核実験で被曝したマグロ漁師たちの被害を取り上げてきた。今回は1950年代から60年代にかけて、アメリカ・ネバダ州で実施された核実験による、アメリカ大陸の放射能汚染を追った。本作は、子どもを被曝から守るために女性たちが始めた「乳歯調査」を中心に取材。4,000 ページを超える文書と 2022 年夏に米国内の被曝者、研究者ら 30 人に行ったインタビューをもとに、今も続く放射能汚染の現実を伝える。

奈良大学文学部教授

高橋 博子氏

アメリカ史、グローバルヒバクシャ研究を専門とされ、著書に『新訂増補版 封印されたヒロシマ・ナガサキ』(凱風社 2012年)、共著『核の戦後史』(創元社2016年)、『歴史はなぜ必要なのか』(岩波書店2022年)ほか。

日時 **2月17日（土）14時～17時**　上映時間 96 分+講演約 70 分

会場 **龍谷大学大宮キャンパス・清和館**

（京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1）

主催　核兵器廃絶ネットワーク京都

問合先　〈事務局〉京都府保険医協会（電話 075-212-8877）

事前申込不要（定員 100 人）　参加費 500 円

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■日本への原爆投下はなぜ必要だったのか

著：Wilson D. Miscamble／訳：金谷俊則

紹介　**石角敏明**（長岡京市）

幻冬舎　1,760 円(税込)

先月紹介した「わたしは広島の上空から・・・」と同じ訳者（被爆二世）です。訳者の想いに思いをはせながら、読んでみてください。

「書名」をみて怒らないでください。被爆者、そして私たちが、被爆の実相を伝える活動をがんばれ、といわれていると思います。原著は、原爆投下後「５０年目」に書かれ、日本語訳は今年出版されました。被爆二世の私とすれば、「何を言っているのだ」と怒りたくなりますが、しかし約２５年前のアメリカ（あるいは世界）では、残念ながら著者の主張が当然のように支持され、学界でも主流を占めていたのでしょう。原著は、原爆の使用が「正しかったのか、どうか」ということより「なぜ必要だったのか」ということに力点が置かれていることに留意して読まれることを勧めます。

ここでは「放射能」が及ぼす影響については全く何も触れられていないし、「被爆者」の惨状については何も触れていません。それだけに「恐ろしさ」も感じます。とにかく日本上陸作戦で起こったであろう「アメリカ軍の死者数」を減らしとか、日本の被害を出来るだけ減らし、という観点が貫かれています。これが、当時のアメリカの主流だったのでしょうか。「戦争に勝つために責任を負っていた政治指導者」のトルーマンの「原爆投下の決定」を弁護というか「肯定」するために、「核兵器」のもつ恐ろしさには全くといってよいほど触れず、アメリカ軍に多大な犠牲者が出る前に日本を降伏させたい、という考えが主流を占めており、その点からだけ「原爆投下」を決定したという、「トルーマン」の決断を、当時のアメリカ・イギリスの判断を「弁護」するというか「正しかった」という姿勢で一貫しています。

現在アメリカでも「原爆投下」に対する評価が少しつつ変わりつつあるといわれますが、戦後５０年経過したアメリカでは書かれている見方が主流を占めていたのであろう、著者の基本的な立場「核抑止論」について私たちはどう考え、応えるべきか、という課題がみえてきます。

Scrap book

■広島原爆記録写真・動画「世界の記憶」に推薦　2025 年登録めざす

屋根や天井が抜け落ちたものの、全壊を免れた広島県産業奨励館（現・原爆ドーム）＝広島市の相生橋上から 1945 年 9 月 11 日ごろ、新見達郎撮影

文部科学省は２８日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が世界的に重要な記録物を登録する「世界の記憶」（世界記憶遺産）の国内候補に、１９４５年の広島原爆投下後の惨状を伝えた「広島原爆の視覚的資料―１９４５年の写真と映像」などを選んだと発表した。同日の関係省庁連絡会議で決まった。ユネスコが、被爆８０年にあたる２０２５年に登録の可否を決める見通しだ。

広島原爆関連は、投下当日の４５年８月６日から同年１２月末までに撮影された写真１５３２枚に加えて、追加申請された動画２本で構成される。毎日新聞社、中国新聞社、朝日新聞社、中国放送、ＮＨＫ、広島市が共同申請した。

写真は、新聞・通信各社の記者や広島市民、調査団に同行したカメラマンら計２７人と１機関が、投下直後に発生した巨大なきのこ雲や重いやけどを負った被爆者の姿などを記録した。

毎日新聞社からは、大阪本社写真部の３人と山口支局長が９月上旬までに撮影した計８８枚。８月９日に大阪から広島入りした故国平幸男記者が廃虚と化した街を撮影した他、故新見達郎記者が９月、大破した広島県産業奨励館（現原爆ドーム）を写した。

２本の動画は、戦時中にニュース映画製作を一手に担っていた社団法人「日本映画社」が撮影した。うち１本は９月３日に昭和天皇に派遣されて広島市内を視察した侍従の永積寅彦氏を捉えており、ＮＨＫがフィルムを所蔵している。

「世界の記憶」はユネスコが９２年、世界的に重要な記録物の保存や活用を促進するために始めた。２年に１回、登録の審査があり、申請は１カ国から２件以内。オランダの「アンネの日記」など、２３年６月時点で４９４件が登録されている。このうち日本関連は、藤原道長の自筆日記「御堂関白記」など８件。

（２０２３年１１月２８日　毎日新聞）

爆心地に近い街並みは完全に破壊され、ビルは外壁を残して焼失した＝広島市播磨屋町（現・中区本通）で1945年8月9日、国平幸男撮影

■広島市　研修に教育勅語　市長の意向　再評価は否定

広島市の新規採用職員向けの研修資料に、松井一実市長が戦前の「教育勅語」の一部を引用していることが１１日、分かった。公益などを説く箇所で、市長就任翌年の２０１２年度から載せているが、

市を通じ「教育勅語を再評価すべきだとは思っていない」としている。

市によると、研修資料は松井市長が監修して職員が作成。２３年度版は１９ページで、公務員の心構えや市のまちづくり、財政状況を説明している。うち１ページに博愛や修学、公益を説く教育勅語の一部を英訳付きで示し、「先輩が作り上げたもので良いものはしっかりと受け止め、後輩に繋（つな）ぐ事が重要」と記している。松井市長の意向で毎年、同じ箇所を引用しているという。

松井市長は「全体を画一的に捉えて良い悪いと判断するのではなく、中身を見て多面的に物事を捉えることが重要。その一例として教育勅語を紹介した」とコメントし、今後も研修で使う考えでいる。

教育勅語は１８９０年に発布され、明治天皇の名で国民道徳の根源や教育の基本理念を明示。父母への孝行、夫婦の和、博愛などを示しつつ、緊急事態には皇室国家に尽くすよう求める記述もある。１９４８年、衆参両院が排除や失効を決議した。　（２０２３年１２月１２日　中國新聞）

■「ゲン」メッセージ　カレンダーで発信　広島平和教育研究所が販売

広島県内の教職員たちでつくる広島平和教育研究所（広島市東区）は１３日、２０２４年度のヒロシマ平和カレンダーを発表した。漫画「はだしのゲン」のイラストを採用し、作者の故中沢啓治さんが託した平和へのメッセージを伝えている。

Ｂ４判の月めくり。４月から始まり、「原爆投下後のようす」「恐ろしい放射線」など月別のテーマに沿った解説文と、ゲンの漫画や絵本から採用した一場面を載せている。最終ページでは「踏まれてもまっすぐ伸びていく麦のように生きろ」というゲンの父親の言葉を紹介した。

２２００部を印刷。希望者には１部千円（送料別）で販売する。研究所は「市教委の平和教材からは削除されたが、戦争を考える上でゲン以上の教材はない。大切なメッセージを読み取ってほしい」としている。県教育用品☎０８２（２６４）１７５０。

（２０２３年１２月１４日　中國新聞）

編集後記

▼１１月に行った府立洛東高校の学習講演に対する感想文（一部）を送っていただきました。難しい内容も多かったと思うのでどれだけ受け止められたか心配していましたが、予想を越えた感想、反応に驚いたほどです。古田さんからも大学授業でのとりくみの様子を知らせていただきました。シカゴの宮本さんからはシカゴ市公立学校７年生（中学１年）の「核エネルギーと身体」の授業の様子も。大学での核の「使う側からの理論」から公立学校の生徒たちの「使われる側の理論」の表現には、短いセンテンスの中にも素晴らしいメッセージが込められていて、私も感動しました。

▼いろいろなことのあり過ぎた２０２３年。忘れ去るのではなく、起きた事の一つひとつを踏み台にして、新しい年２０２４年に挑んでいきたいと思います。みなさん、来る年もよろしくお願いいたします。（平）

2024年1月(睦月・むつき)行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
1	1	月	元旦
	2	火	
	3	水	
	4	木	
	5	金	キンカン行動
	6	土	新春６・９行動（14 時・清水寺） 小寒
	7	日	七草
	8	月	成人の日
	9	火	新春６・９行動（14 時・清水寺）
	１０	水	
	１１	木	
	１２	金	キンカン行動
	１３	土	
	１４	日	全国都道府県対抗女子駅伝
	１５	月	
	１６	火	
	１７	水	阪神淡路大震災発生の日（１９９５年）
	１８	木	
	１９	金	安保法制廃止をめざす行動（１８時３０分・市役所前） キンカン行動
	２０	土	大寒
	２１	日	京都市長選挙告示
	２２	月	核兵器禁止条約発効の日（２０２１年） 日本政府に核禁条約批准を求める街頭宣伝行動（14 時・四条河原町）
	２３	火	
	２４	水	
	２５	木	
	２６	金	キンカン行動
	２７	土	
	２８	日	神奈川県原爆被災者の会二世・三世支部第３回公開講座（１３：３０ZOOM）
	２９	月	
	３０	火	
	３１	水	